

北海道札幌南高等学校 125周年周年事業について

2020年8月19日

六華同窓会 125周年実行委員長
南 32期 村木宏彰

本年10月17日（土）に予定されておりました、母校125周年記念式典、並びに祝賀会はともに5月の段階で中止と決定されました。

2年前の春から、同窓会内部、学校サイドと協議を進め、都度ご報告してまいりました。また、本年に入りましてからは、MITの石井教授の講演を、株式会社ニトリ様と当会との共催でヒタルにおいて、母校の生徒のみならず、広く市内の高校生向けに開催することも模索してまいりましたが、これについても中止と相成りました。

簡単に経緯についてご説明いたします。まず、コロナ発生初期段階で、本年の六華同窓会総会・懇親会の幹事当番期であります45期より、開催を危ぶむ声が出ておりました。ただ、本年の総会・懇親会は母校の125周年の祝賀会を兼ねるものであり、この段階ではもう少し様子を見てほしい旨の要請をいたしました。しかしながら、GW最終日（5月6日）の後藤委員長との打ち合わせで、正式に中止を了承することといたしました。秋までの間まだ時間があり、もう少し時間をおいての判断もありえたかもしれません。しかしながら、実行委員長経験者としたしましては、不確定要素を抱えて準備を進めることが困難であり、且つGW直後に始まる本格的な広告募集活動も現状では困難であることを十分理解できたからです。

その後同月14日に、南校廣田校長をはじめとした幹部との打ち合わせにおいて、学校サイドより記念式典の中止の申し出がありました。コロナ対応としての結果でもあります。春からの登校中止の影響で、カリキュラム消化に苦慮しての決断でもあるようです。従前より申し上げておりますように、125周年はあくまで母校の周年であり、我々はサポートをさせて頂く立場ゆえ、学校の決断に異を唱える立場ではないことをお伝えいたしました。

以上のような経緯で、周年事業を中止せざるを得なかったわけですが、現状でもコロナの終息が見えないことに鑑みれば、その決定は正しかったのではないのでしょうか。